



第 196号

連携室だより



公益財団法人
北海道医療団

帯広第一病院

帯広第一病院理念・基本方針

【理念】

地域に信頼される病院を目指し、質の高い、思いやりのある医療サービスを提供する。

【基本方針】

- 1 患者の皆様の安全と権利を守ります。
- 2 地域医療機関との連携を推進します。
- 3 救急医療の充実に努めます。
- 4 研修や教育を積極的に行います。
- 5 働きがいのある職場を作ります。

コロナ禍におけるグリーフケア ～グリーフケア外来（がん看護専門外来）におけるケア～



がん看護相談支援室 がん看護専門看護師 小里 裕美

グリーフ（悲嘆）は様々な形で私たちの日常生活に影響を与えます。また、喪失に対する反応は1人ひとり異なり個別的なものであるため、強い孤独を感じたり、人生が一変したと語る人もおられました。

『面会制限で最期に立ち会えなかった』、『傍で見守ってあげられなかった』という声を聴くたびにCOVID-19による影響の大きさを感じずにはいられません。このように、望む形で看取りができないことで悲しみを乗り越えることができず、大切な人の死を実感できないが故に気持ちの整理をつけられなかったり、最期に何かしてあげられたと感じる機会を失うことは、通常の悲嘆のプロセスを歩めないことに繋がる可能性も考えられます。

当グリーフケア外来では、コロナ禍だから実践したいことができないと嘆くのではなく、“今だからできること”に意識を向け、グリーフ（悲嘆）は自然な反応であること、不安定な時があってもいいこと、1人で抱え込まないこと（孤立させない）を大切にしています。“辛い”“悲しい”想いを自分の言葉で語れること、聴いてもらえること、受け止めてもらえることによって喪失と向き合いながら、“乗り越えよう”ではなく、“この経験を大切にできるようなケア”を実践しています。

今号の内容

- ・コロナ禍におけるグリーフケア がん看護相談支援室 がん看護専門看護師 小里 裕美 (1)
- ・令和3年度消化器内視鏡センター実績報告 消化器内視鏡センター長 乗田 一明 (2)
- ・歯科口腔外科入院による全身麻酔下手術実績 歯科口腔外科部長 工藤 章裕
- ・肝疾患相談室事業終了のお知らせ (3)
- ・外来化学療法の紹介 化学療法センター長 青木 泰孝
- ・医療社会事業科から人事異動のご挨拶 帯広西病院 地域医療連携室長 林 栄一 (4)

令和3年度消化器内視鏡センター実績報告



消化器内視鏡センター長 乗田 一明

帯広・十勝管内の先生方におかれましては平素より大勢の患者様をご紹介頂き、誠にありがとうございます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

つきましては昨年度（令和3年度：令和3年4月～令和4年3月）の内視鏡検査実績についてご報告申し上げます。検査総数は多い年で9000例弱で推移しておりましたが、令和2年度は7903例、令和3年度は6083例となっております。新型コロナウイルスによるクラスター発生に伴い長期間の診療停止となり、皆様方に多大なご迷惑とご心配をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

現在当センターは常勤医師6名体制で対応しております。また東京都立多摩総合医療センターより消化器内科専攻医を受け入れており、より一層の臨床面での充実と教育に力を入れております。つきましては従来の夜間・休日の緊急対応はもちろん、日常診療で悩ましい症例についても、いつでも気軽にご紹介頂けましたら幸いです。これからも帯広・十勝管内の消化器医療により一層貢献して参りたいと思います。何卒よろしくご願ひ申し上げます。

検 査 手 技	令和元年度	令和2年度	令和3年度
上部消化管	5,975 例	5,584 例	4,527 例
(内 訳) 上部消化管内視鏡検査	5,725 例	5,343 例	4,368 例
消化管止血術	87 例	59 例	46 例
異物除去術（アニサキスなど）	13 例	17 例	6 例
胃ESD(内視鏡的粘膜下層切除術)	15 例	30 例	19 例
食道静脈瘤硬化療法・結紮術	11 例	21 例	8 例
食道・胃ステント留置術	8 例	18 例	3 例
内視鏡的胃ろう造設術	82 例	68 例	39 例
下部消化管	2,293 例	1,902 例	1,305 例
(内 訳) 下部消化管内視鏡検査	1,295 例	1,251 例	1,078 例
大腸止血術	31 例	24 例	12 例
大腸ESD(内視鏡的粘膜下層切除術)	31 例	36 例	12 例
大腸EMR(内視鏡的粘膜切除術)	884 例	551 例	179 例
大腸ステント留置	44 例	23 例	14 例
ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査）胆道ステント留置術	255 例	291 例	174 例
カプセル内視鏡検査	6 例	1 例	0 例
バルーン内視鏡検査	9 例	17 例	4 例
胆膵EUS	194 例	98 例	63 例
肝生検（経皮的針生検）	12 例	9 例	9 例
経カテーテル肝動脈塞栓術	12 例	0 例	0 例
経皮的ラジオ波焼灼療法	6 例	1 例	1 例
合 計	8,762 例	7,903 例	6,083 例

歯科口腔外科入院による全身麻酔下手術実績



歯科口腔外科部長 工藤 章裕

歯科口腔外科の令和3年度（令和3年4月から令和4年3月まで）の全身麻酔下での手術実績をご報告させていただきます。昨年度は5月～7月と1月～2月にかけて、新型コロナウイルスクラスター発生のため、約3か月間にわたり外来診療と入院、手術が停止しました。

手術予約をしていた患者さんはもちろんのこと、患者さんのご紹介をいただいていた医療機関の方々にも大変なご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。約3か月間、手術が停止していたため、昨年度の手術件数は減少しています。

全身麻酔下で手術をおこなったのは116人（令和2年度は143人）で、手術件数は427例（令和2年度は555例）でした。手術内容は抜歯が369件と最も多く、そのうち187件は埋伏智歯などの埋伏歯抜歯でした。

抜歯	369	
内訳	埋伏歯抜歯術	187
	埋伏歯抜歯術以外	182
歯根嚢胞摘出手術	30	
下顎骨形成術（下顎枝矢状分割術）	2	
下顎骨形成術（オトガイ形成）	1	
上顎骨形成術（Le Fort I 骨切り術）	2	
顎骨内異物除去術（プレート等）	2	
顎骨腫瘍・嚢胞摘出術	13	
顎骨嚢胞開窓術	1	
下顎骨隆起形成術	1	
口蓋腫瘍切除	1	
浮動歯肉切除	1	
口底腫瘍切除	1	
舌小帯形成術	2	
舌悪性腫瘍手術	1	
合計	427	

顎骨の良性腫瘍や嚢胞の摘出は13件、顎骨嚢胞開窓は1件でした。悪性腫瘍手術は舌癌切除1件でした。顎変形症に対する上顎骨形成術（Le Fort I 骨切り術）は2件、下顎骨形成術（左右下顎枝矢状分割術）は2件、オトガイ形成術が1件でした。顎変形症手術はいずれも上顎骨形成術と下顎骨形成術を同時におこなっています。

全身麻酔下で手術をおこなった患者さんの多くは歯科医院から紹介をいただいた方です。たくさんの貴重な症例のご紹介をいただいたことに心より感謝申し上げます。

今後も地域の医療機関と連携を図りながら口腔外科的治療を中心として診療をおこなっていきたいと思います。



「肝疾患相談室」事業終了のお知らせ

2017年6月に開設した「肝疾患相談室」ですが、この2年、ほぼご相談がないことから、一定の役割を終えたものとして2021年度末をもって当該事業を終了いたしました。お知らせが遅くなり誠に申し訳ございませんが、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

外来化学療法を紹介

化学療法センター長 青木 泰孝



十勝地域の先生方には、日頃より大変お世話になっております。令和3年4月より化学療法センター長・外科副部長を務めさせていただきます青木で御座います。

まず初めに、昨年度は、当院では再度のコロナクラスターを招いてしまい、患者様・ご家族・近隣の医療関係者の皆様、本当にたくさんの方々にご迷惑をお掛けしましたこと心よりお詫び申し上げます。当院職員が一致団結し、患者様・御家族様のご協力もあり、幸いクラスター収束までたどり着くことができました。

今回は当院化学療法センターにおける化学療法の現況につきましてお話させていただきます。昨年度令和3年4月から現在までの化学療法の施行数は全体で858件（昨年度全体は1295件）となっております。新型コロナウイルスの影響や当院のクラスターの影響を受け、全体としては施行数は減少となりました。しかし内訳では胆膵癌の施行数が284件で（全体の33%）あり、当院では胃癌や大腸癌のみならず、胆膵癌にも積極的な治療を行っております。またクローンや潰瘍性大腸炎などのIBD疾患についても専門知識を有する医師が在籍し積極的な加療が行われております。

今後は、新型コロナウイルス感染症に対して、クラスター再発を起こさぬよう更なる対策を講じていく所存で御座います。

近隣の先生方におかれましては、当院に化学療法の必要な担癌患者様がいらっしゃいましたら是非ご紹介を頂きたいと考えております。患者様個々の病態や遺伝的素因、背景などを踏まえ、常に最善と考えられる化学療法を提案、かつ安全に実施できるようにスタッフ一同、日々努力していく所存で御座います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

医療社会事業科から人事異動のご挨拶

帯広西病院 地域医療連携室長 林 栄一



地域の先生方には、平素より大変お世話になっております。

この度、人事異動により、帯広西病院地域医療連携室に勤務となりました。帯広第一病院では、22年間勤務し、地域医療連携室の開設時より携わることができました。これまで地域の先生方の所へ直接訪問させて頂いたり、連携の会などの活動により、多くのことを学ばせて頂き、貴重な経験をすることができました。私が入職した当初はMSW2名の小さな部署でしたが、現在ではMSW6名、更に退院支援看護師1名と協働での入退院支援、また連携室担当事務は5名と、大きな部署となりました。

帯広西病院では、主に療養病棟と昨年11月に開設された介護医療院にて、入退院支援に関わらせて頂きます。これまでの経験を活かし、新たな気持ちで頑張りたいと思っています。地域の先生方、関係機関の皆様には今後ともお世話になりますが、どうぞよろしくお願い致します。

発行 公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院 地域医療連携室

〒080-0014 帯広市西4条南15丁目17番地3 TEL 0155-25-3121(病院代表)

【地域医療連携室】

TEL 0120-558-091(連携室直通)

FAX 0155-27-0248(連携室専用)

連携室専用e-mail renkei@zhi.or.jp

